

3. 特筆すべき活動 ((1)・(2) でA4用紙1枚)

(1) 全学の教育研究に関する組織改編等への取組と協力、特色ある教育GP等の採択状況と取組、21世紀COE等の採択状況など。

(1) 東北大学と独立行政法人放射線医学総合研究所との連携による分子イメージング研究教育の人材育成の推進に協力するため、「分子イメージング」の教育・研究について、独立行政法人放射線医学総合研究所と連携して、博士課程の学生が当該研究所において研究指導を受ける連携大学院方式を採用するとともに薬学研究科に連携講座を設置することにした。また、本研究科と独立行政法人放射線医学総合研究所の相互の研究交流を促進し、学術および科学技術の発展に寄与することに関する協定を結ぶことになった。また、若手研究者養成の支援組織として東北大学国際高等研究教育機構が平成18年度から立ち上がっているが、その教育プログラムとして、本研究科から講義科目として「医療薬学特論」、「応用医療薬学特論」、および「薬効学特論」の3つの科目を提供し、協力している。

(2) 東北大学21世紀COEプログラム「医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点」(拠点リーダー：今井潤薬学研究科教授)は平成16年度に採択されたが、平成17年度、18年度もその活動が順調に行われた。本プログラムは医薬開発のための教育拠点、人材育成拠点を目指したものであるが、その取り組みのひとつとして、MCS (Master of Clinical Science) コースを設け、医薬臨床開発の人材育成を目指した教育を平成17年度から実践している。このMCSコースの教育プログラムは、薬剤師認定制度認証機構から平成18年度より認証を受けた。このことは、本コースが高度で卓越した薬剤師の教育システムとして認められたことを意味する。

(2) その他、特筆すべき研究・教育・診療・社会貢献等への取組と成果、世界的位置付け (ISI citation など) など。

本研究科の今井潤教授が中心となって、世界に類をみない臨床疫学研究である「大迫研究」、大規模介入試験である「HOMED-BP 研究」、大規模調査追跡研究である「J-HOME 研究」を行っている。これらの研究は高血圧を科学的に評価するものであるが、そのうち「大迫研究」は18年の歴史をもつ臨床疫学研究であり、世界保健機構 (WHO) における家庭血圧の高血圧国際基準の唯一の根拠となっている。「HOMED-BP 研究」は降圧薬服用者を対象とした世界初の双方向情報送受信システムを利用したもので、日本人の高血圧患者における最適第一選択薬を決定するのを目的のひとつとしている。さらに、「J-HOME 研究」は、降圧薬服用者において家庭血圧コントロールに関わる要因および予後・臓器障害との関連を明らかにするための臨床疫学研究であり、対象患者は日本全国で3,400名を数えている。これらの研究成果は、直接患者へのフィードバックが為されることにより個々の患者の治療に貢献するとともに、高血圧治療における適切な薬物療法を示すことにより高血圧患者全体に対しても貢献している。

4. その他の評価項目

(1) 科研費採択率 = 採択件数 61 ÷ 教員数 68 = 89.7%

(2) 科研費を含めたすべての外部資金の獲得件数と総額, オーバーヘッド (間接経費の 50%, 奨学寄付金の 5%) 拠出総額と拠出率 (総額 / 教員数)

(厚生労働科研費を含む。学外で経理措置をするものも含む。)

科研費, 奨学寄付金はそれぞれの総額を記載し, その他の外部資金のうち NEDO, CREST, 科学技術振興調整費などの大型資金については, その名称と資金ごとの総額を記載する。

別紙のとおり

(3) 女性教員比率 (平成 18 年 8 月 31 日現在)

助手含む = $8 / 68 = 11.8\%$

助手除く = $0 / 35 = 0\%$

法人化前との比較

平成 16 年 3 月時点 女性教員比率

助手含む = $4 / 56 = 7.1\%$

助手除く = $0 / 34 = 0\%$

(4) 全学教育への貢献状況 担当原則数 12, 担当数 13

(5) 日本学術振興会特別研究員の採択

①平成 18 年度受入数 (研究科は評価分析室で記載, 研究所等は記載)

DC1	DC2	PD	SPD
1人	2人	0人	人

②平成 18 年度採択他機関等採用数

特別研究員 PD	0人
特別研究員 SPD	0人